



大牟田市 都市計画 マスタープラン



第2章

Omuta City Master Plan

まちづくりの方向

- 1 大牟田市が抱えるまちづくりの課題
- 2 まちづくりの課題
- 3 まちづくりの目標
- 4 都市の将来像

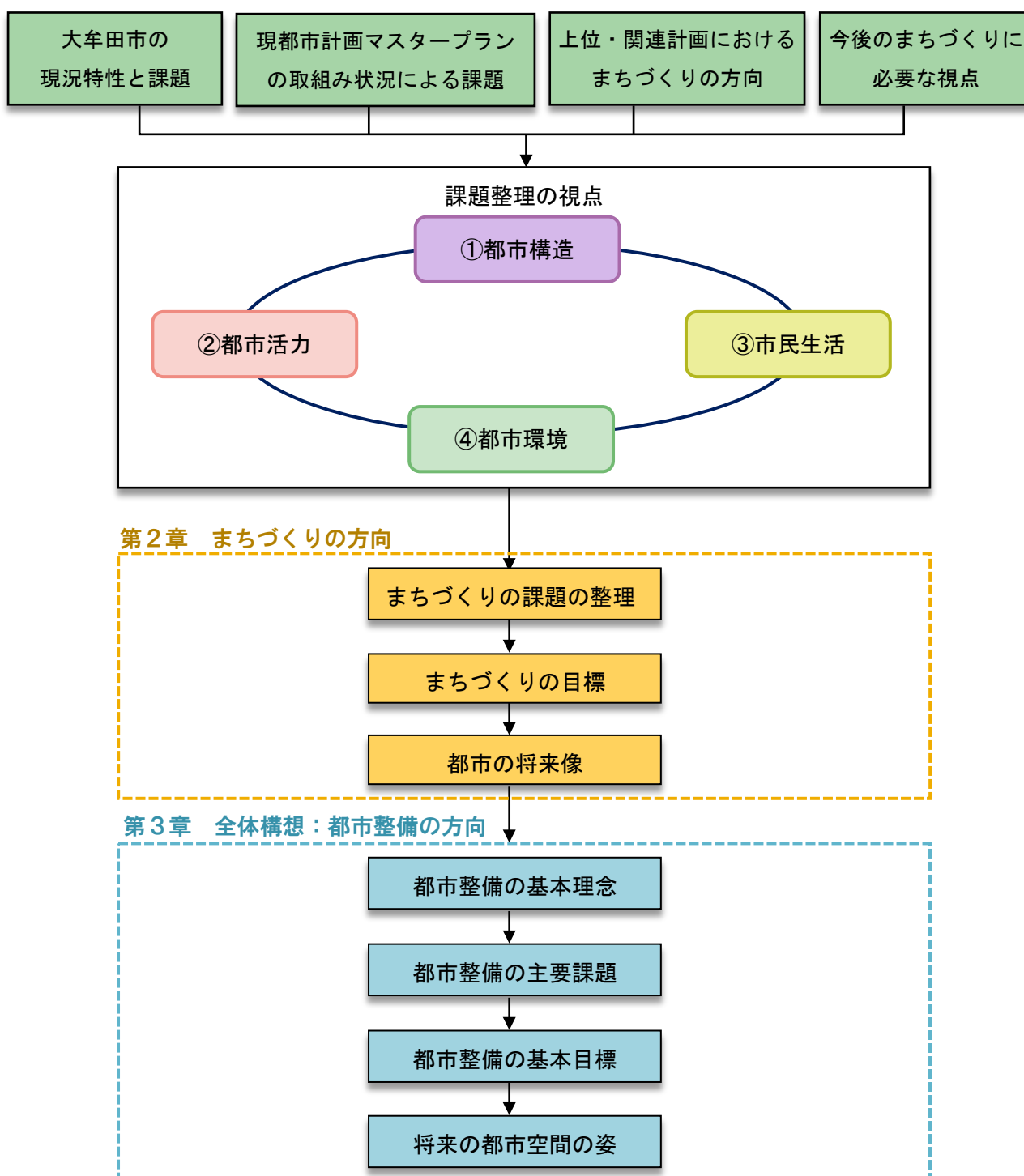


第2章 まちづくりの方向

1. 大牟田市が抱えるまちづくりの課題

(1) 課題整理の視点

まちづくりの課題整理にあたっては、本市の現況特性と課題や現都市計画マスタープランの取組み状況による課題を踏まえつつ、上位・関連計画におけるまちづくりの方向や本市における今後のまちづくりに必要な視点を整理した上で、今後のまちづくりに向けた課題整理の視点として「都市構造」「都市活力」「市民生活」「都市環境」の4つの視点を設定し、まちづくりの課題を整理します。



(2) 大牟田市の現況特性と課題

第1章で整理した現況特性を踏まえ、「大牟田市の現況特性と課題」「現都市計画マスタープランの取組み状況による課題」を以下に整理します。

＜大牟田市の現況特性と課題＞

- ・人口減少に応じた人口規模にふさわしい市街地の形成と、厳しい経済状況においても持続可能な効果的で効率的な市街地形成が必要
- ・自然災害によって市民の災害に対する不安が高まっており、災害に対する不安を和らげ、災害時にも迅速に対応できるような自助・共助のまちづくり及び安心安全なまちづくりへの意識啓発が必要
- ・市民ニーズ・価値観の多様化への対応、地方分権による市の独創性・責任の向上
- ・国が人口減少・高齢社会に対応するためのまちづくり施策（立地適正化計画）を制度化
- ・集約型都市構造の実現には、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」が必要なため、「立地適正化計画」と併せて「地域公共交通網形成計画」の策定、及び既存集落の活力維持に配慮した「小さな拠点づくり」などの検討が必要
- ・交通便利性が向上したことによる新たな産業の誘致や、介護・福祉関連産業及び石炭産業やその関連産業で栄えた「ものづくり」への取組みが必要
- ・市街地郊外部や市街化調整区域の人口減少に伴う活力低下に対する対応が必要
- ・市街地周辺の自然環境の保全や無秩序な市街地拡大の抑制に資する区域区分の継続
- ・将来の人口規模を見据えた適正な都市施設の整備が必要
- ・魅力ある都市空間を形成するため、土地利用の計画的な誘導と利用促進を図り、良好な都市景観の形成や緑豊かで快適な都市環境の創出が求められている
- ・適正な市街地形成の誘導と産業振興による人口減少の抑制が求められている
- ・子育て世代が快適に生活できる環境づくりと児童福祉施設の充実が求められている
- ・障害者の状態やニーズに応じた適切なサービスの提供及び就労支援の充実が求められている

＜現都市計画マスタープランの取組み状況による課題＞

- ・区域区分を継続し、市街化調整区域における既存集落の活力維持に向けた取組みが必要
- ・「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」への取組みが市の現況及び市民ニーズにおいても必要と判断
- ・増加する空家に対し、空家等対策法に基づく改善に向けた取組みが必要
- ・中心市街地及び新大牟田駅周辺の拠点形成とにぎわいの創出
- ・密集市街地における防災性を高める取組みが必要
- ・広域道路網の構築・時間距離の大幅短縮を活かした市内道路網のネットワーク強化
- ・歩道やガードレールの整備推進及び狭隘道路の解消に対する対応が必要
- ・地域の実情に応じた将来的に持続可能な公共交通の維持・確保に関する取組みが必要
- ・市街地を取り囲む緑地を保全するため、区域区分の継続が必要
- ・既存公園の機能的再編成等を行うためのパークマネジメント施策の検討や公園配置の検討及び身近な緑の市民ボランティアによる維持管理施策の推進が必要
- ・上・下水道の整備や最終処分場については計画的に事業を実施
- ・老朽化した公営住宅が多いため、長寿命化計画に基づく整備を実施
- ・全国的に発生している自然災害による市民の災害に対する防災意識の高まりへの対応が必要
- ・地域防災力の向上など災害に強いまちづくりへの取組みが必要
- ・世界文化遺産施設を含む近代化産業遺産を活かしたまちづくりや来街者の受け入れに資する街並み景観形成が必要
- ・ユニバーサルデザインの推進やバリアフリー化整備は計画的に実施

(3) 上位関連計画におけるまちづくりの方向

① 広域計画

項目	主な関連施策										
国	【国土形成計画（H27.8）】 国土の基本構想：「対流促進型国土」の形成：「対流」こそが日本の活力の源泉 計画の基本コンセプト：「対流促進型国土」の形成 ・「コンパクト＋ネットワーク」→人口減少に立ち向かう地域構造・国土構造 ・「個性」と「連携」による「対流」の促進 →地域の個性を磨き、地域間・国際間の連携によって活発な「対流」を起こす ・「ローカルに輝き、グローバルに羽ばたく国土」 →「住み続けられる国土」と「稼げる国土」の両立 【国土のグランドデザイン 2050（H26.7）】 基本戦略 <table border="0"> <tr> <td>(1) コンパクトな拠点とネットワークの構築</td><td>(6) エネルギー制約・環境問題への対応</td></tr> <tr> <td>(2) 移動と交流・連携の促進</td><td>(7) インフラを賢く、長く使う</td></tr> <tr> <td>(3) 地域経済を支える産業の活性化</td><td>(8) 技術革新を取り込む社会をつくる</td></tr> <tr> <td>(4) 災害に強い国土へのリノベーション</td><td>(9) 子どもから高齢者まで生き生きと暮らせる コミュニティの再構築</td></tr> <tr> <td>(5) 美しい国土を守り、育てる</td><td>(10) 国土・地域の担い手づくり</td></tr> </table>	(1) コンパクトな拠点とネットワークの構築	(6) エネルギー制約・環境問題への対応	(2) 移動と交流・連携の促進	(7) インフラを賢く、長く使う	(3) 地域経済を支える産業の活性化	(8) 技術革新を取り込む社会をつくる	(4) 災害に強い国土へのリノベーション	(9) 子どもから高齢者まで生き生きと暮らせる コミュニティの再構築	(5) 美しい国土を守り、育てる	(10) 国土・地域の担い手づくり
(1) コンパクトな拠点とネットワークの構築	(6) エネルギー制約・環境問題への対応										
(2) 移動と交流・連携の促進	(7) インフラを賢く、長く使う										
(3) 地域経済を支える産業の活性化	(8) 技術革新を取り込む社会をつくる										
(4) 災害に強い国土へのリノベーション	(9) 子どもから高齢者まで生き生きと暮らせる コミュニティの再構築										
(5) 美しい国土を守り、育てる	(10) 国土・地域の担い手づくり										
福岡県	【福岡県都市計画基本方針（H27.10）】 ・筑後都市圏は全体が多様で豊かな自然を内包する広大な「ネットワーク田園都市圏」 ・コンパクトで持続可能な都市を再生し、都市をつなぐネットワークを構築することで、相互に補完して機能を高める自立都市圏としての「ネットワーク田園都市圏」の形成を推進 ・新たなニーズに対応した伝統工芸などの地場産業の振興や、観光や農産品など多様な地域の資源を生かした産業の展開などを通じて、各地域の価値を高め、個性あるまちづくりを推進 ・当圏域は、3つの鉄道軸により南北方向は高い公共交通サービスが形成されるものの、東西方面の公共交通サービスの低下が懸念されるため、サービスの維持・充実を図りながら、各地域コアの交流強化を推進 【筑後都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（H30.3）】 1) 持続可能な、快適で魅力ある都市生活を支える集約型の都市づくり 2) 誇りがもてる美しい都市づくり 3) 地力のある都市づくり 4) 自然の保護や都市ストックの活用により、環境にやさしいまちづくりを進める 5) 住民が主体の参加と協働によるまちづくりを進める 【大規模集客施設の立地ビジョン（H19.6）】 ・福岡県は、将来の人口減少・超高齢社会を見据え、福岡県内に大規模集客施設が立地できる区域を広域拠点内に限定 ・立地ビジョンには法的な強制力はないものの、県内自治体には用途地域の変更や特別用途地区の指定に向けた取組みを行うよう指導 ・大牟田市内の広域拠点は、JR・西鉄大牟田駅、西鉄新栄町駅周辺										
周辺市町との連携	【有明圏域定住自立圏構想】 ・大牟田市と圏域市町において、共生ビジョンに掲げる協定事項（生活機能の強化に関する取組み、結びつきやネットワークの強化に関する取組み、圏域マネジメント能力の強化に関する取組み）を実施し、圏域全体の活性化、発展を目指す										

<担うべきまちづくりの方向>

コンパクトな拠点形成とネットワークの構築による「ネットワーク田園都市圏」の実現

都市の個性を活かしたまちづくり、サービスの維持・充実、地域コアの交流強化を推進

有明圏域の生活機能・ネットワーク・マネジメント強化による圏域全体の活性化、発展

②市の上位関連計画

項目	主な関連施策																								
(まち・ひと・しごと創生総合戦略) 第5次総合計画	【まちの将来像】 「人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする ほっとシティおおむた」 【目指す都市像】 第1章 未来を拓く人がはぐくまれています ●安心して子どもを産み、育てることのできるまち ●心豊かでたくましい青少年がはぐくまれるまち ●社会を生き抜く力を育成する学校教育が充実しているまち ●専門的な教育の機会が確保されているまち ●生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち ●スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち ●文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち ●一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち ●多文化共生が実現するまち 第2章 地域の宝が活かされ、にぎわいのあるまちになっています ●企業の活力があらわれ成長するまち ●新しい企業・産業が生まれ、はぐくまれるまち ●人との行き交い、にぎわうまち ●豊かな自然を活かした魅力と競争力ある農業・漁業のまち ●誰もが生き生きと働くことができるまち ●地域の魅力を積極的に発信するまち 第3章 支えあい、健やかに暮らせています ●地域の中でみんなで見守り支え合う、やさしさのあふれるまち ●生涯にわたって健康で元気に暮らせるまち ●高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち ●障害があっても、みんなと一緒に自分らしく暮らせるまち ●将来にわたり誰もが安定した生活を送ることができるまち 第4章 都市と自然が調和した快適なまちになっています ●魅力ある都市空間が形成されたまち ●交通ネットワークが整ったまち ●人にやさしい住まい・住環境が形成されたまち ●地球や自然を大切にしますまち ●生活環境に配慮したまち ●ごみのないきれいなまち ●資源が循環する環境にやさしいまち 第5章 安心して安全に暮らせています ●事故や犯罪のないまち ●災害に強いまち ●消防・救急・救助体制の充実したまち ●必要なときに必要な医療が受けられるまち ●安心安全な水があるまち ●消費者及び利用者が安心して暮らせるまち																								
	人口ビジョン	【将来人口の展望】 ・本市では、合計特殊出生率について、2025年に国民・県民の希望出生率である1.8、2040年に人口置換水準である2.07とし、加えて、2040年に社会動態を均衡させることで、2060年の人口展望を75,320人とします。 【大牟田市の将来人口展望】 75,320人 (2060年) <table><caption>本市の将来人口の展望 (推定値)</caption><thead><tr><th>年</th><th>2010年</th><th>2015年</th><th>2020年</th><th>2025年</th><th>2030年</th><th>2035年</th><th>2040年</th><th>2045年</th><th>2050年</th><th>2055年</th><th>2060年</th></tr></thead><tbody><tr><td>人口(人)</td><td>123,640</td><td>110,664</td><td>109,452</td><td>101,459</td><td>99,211</td><td>93,409</td><td>89,642</td><td>81,448</td><td>77,423</td><td>75,320</td><td>49,622</td></tr></tbody></table>	年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	人口(人)	123,640	110,664	109,452	101,459	99,211	93,409	89,642	81,448	77,423	75,320
年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年														
人口(人)	123,640	110,664	109,452	101,459	99,211	93,409	89,642	81,448	77,423	75,320	49,622														

(4) 今後のまちづくりに必要な視点

平成 26 年 5 月に行われた第 5 次総合計画の策定に伴う市民意識調査において、「大牟田市が将来どのようなまちになってほしいか」という設問に対し、「福祉・医療が充実しているまち」が 33.4%と最も多くなっています。次いで、「安心して、子どもを産み、育てられるまち」が 30.5%となっています。

そのため、今後のまちづくりには、下に示す 3 つの視点が必要です。

①地域包括ケアシステムと認知症の人を支える地域づくり

大牟田市では、地域包括ケアシステムの仕組みを構築する上で小学校区（日常生活圏域）を単位として、認知症施策、医療との連携、生活支援サービスの充実など独自の取組みを進めています。

②子育てしやすい環境づくりへの取組み

大牟田市では、市民が安心して子どもを産むことができ、子育てに幸せや楽しさを実感して暮らせるまちを目指しています。この実現のために、「大牟田市子ども・子育て支援事業計画（計画期間：平成 27～31 年度）」に基づき、子育て支援の充実に取り組んでいます。

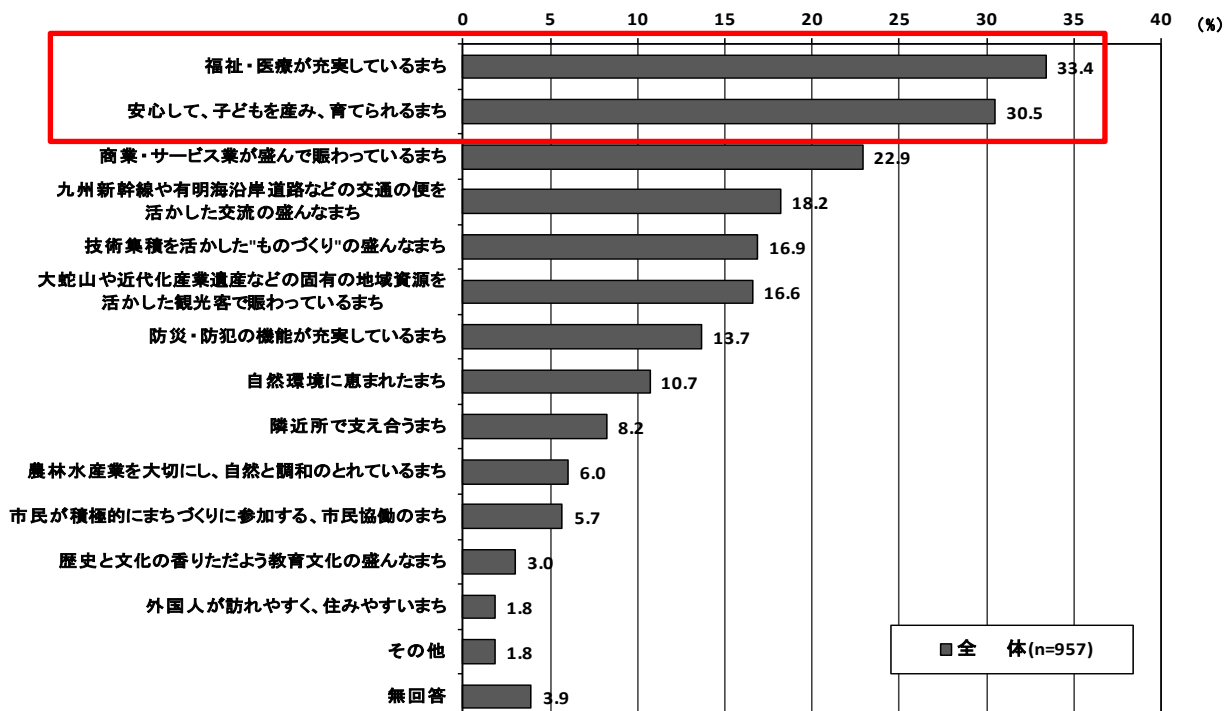
③大牟田市の協働のまちづくり

大牟田市では、地域コミュニティを再構築するために平成 22 年 12 月に「地域コミュニティ基本指針」を策定し、「校区まちづくり協議会」づくりを促進しています。

■第 5 次総合計画の策定に伴う「市民意識調査」（平成 26 年 5 月）

問 8. まちづくりの方向性

大牟田市は将来どのようなまちになってほしいですか。（○は 2 つ以内）



2. まちづくりの課題

大牟田市が抱えるまちづくりの課題や上位関連計画におけるまちづくりの方向を踏まえ、「都市構造」「都市活力」「市民生活」「都市環境」の4つの視点からまちづくりの課題を整理します。

(1) 都市構造に関するまちづくりの課題

- 区域区分の継続による無秩序な市街地拡大の抑制と市街地周辺の自然環境の保全が必要
- 社会情勢の変化や市民ニーズ・価値観の多様化に対応した将来都市構造の見直しや集約型都市構造を実現するための人口規模に適した市街地の形成、拠点間の連携強化を図る適正な道路網と公共交通ネットワークの形成など独自性のあるまちづくりの取り組みが必要
- 大牟田市地域公共交通網形成計画を踏まえた持続可能な公共交通の維持・確保が必要
- 大牟田市立地適正化計画を導入することで、誘導区域外や市街化調整区域の居住者に不安を生じさせないために、既存集落の活力を維持するための対策を検討し、今後のまちづくり方針を導くことが必要

(2) 都市活力に関するまちづくりの課題

- 有明海沿岸道路の整備によって、他都市への移動時間が大幅に短縮するため、生活圏域の拡大と交流人口の増加を見据えたまちづくりの転換が必要
- 交流人口の増加を活かし、中心市街地や新大牟田駅周辺のにぎわいの創出、新たな産業誘致などを進めることが必要
- 産業振興策と一体となった適正な土地利用の誘導による市街地形成と人口減少の抑制が必要

(3) 市民生活に関するまちづくりの課題

- 地域包括ケアの推進や校区まちづくり協議会との協働によるまちづくりが必要
- 子育て環境の向上や高齢者の見守り体制と連動したまちづくりの取り組みが必要
- 地震や集中豪雨などによる大規模な気象災害の発生で、市民の防災対策への関心が高まっており、地域防災力の強化と自助・共助への意識啓発の取り組みが必要

(4) 都市環境に関するまちづくりの課題

- 密集市街地の環境改善や増加する空家等への対応、狭隘道路の解消など、市街地内の居住環境の改善が必要
- 人口減少を見据えた、公共施設等の効率的な維持管理や長寿命化、再編等の検討を行うことが必要
- 世界文化遺産をはじめとする観光資源を活かした魅力ある市街地の形成と景観形成に対する取り組み強化と市民意識の向上が必要
- 上下水道や最終処分場などの都市施設や市営住宅に関する施設の老朽化への対応と持続可能な経営基盤の強化、ユニバーサルデザインやバリアフリー化の取り組みが必要
- 自然環境の保全と自然とふれあえる空間確保、市民参加による緑化の推進が必要

3. まちづくりの目標

まちづくりの課題を踏まえ、本市が目指すべきまちづくりの目標として設定し、都市の将来像を導きます。

都市構造

- ①都市活動が効率よく機能するまちを目指す
- ②利便性の高い道路・交通ネットワークが整ったまちを目指す
- ③豊かな自然を活かした魅力と競争力ある1次産業が継続できるまちを目指す

都市活力

- ④新たな産業の導入・育成や企業誘致による活力あるまちを目指す
- ⑤魅力ある商業地の形成と恵まれた交通アクセスを活かしたにぎわいと活力あふれるまちを目指す

市民生活

- ⑥福祉活動とまちづくりが連携し地域活動が盛んな安心して暮らせるまちを目指す
- ⑦市民・企業・行政等の協働のまちづくりが盛んなまちを目指す
- ⑧教育・文化・スポーツの充実と健康で豊かな心を育めるまちを目指す
- ⑨自然災害に強く地域防災力に優れたまちを目指す

都市環境

- ⑩市街地内の居住環境の向上と効率の良い都市経営への転換により居住性に優れたまちを目指す
- ⑪歴史、文化資源の活用により大牟田らしさを感じる個性豊かな魅力あるまちを目指す
- ⑫市街地を取り囲む海・山・川の豊かな自然を維持し身近にふれ合えるまちを目指す

4. 都市の将来像

まちづくりの課題に対応し、まちづくりの目標を実現し、市民が安心して豊かに暮らせる人にやさしいまちづくりを実現する都市の将来像を設定します。

都市の将来像

住み・働き・にぎわう持続可能な快適環境都市

～みんなでつくる

安心して豊かに暮らせる

人にやさしいまち～

「住み」「働き」「にぎわう」、市民が安心して豊かに暮らせる人にやさしいまちづくりの実現を、市民・企業・行政等がお互いの役割を認識しながらみんなでつくり、市民がずっと住み続けられる持続可能な快適環境都市の実現を目指します。